



東海豪雨



草野川

刈谷市における水田貯留事業の取組

令和8年1月20日

かりやしやくしよ

刈谷市役所

みずしげんぶ

水資源部

うすいたいさくか

雨水対策課



水田貯留事業実施の背景

本市では、平成27年度に刈谷市雨水対策マスタープランを策定し、浸水被害の解消を図るため、河川施設、下水道施設、流出抑制施設等の整備を行い、治水事業に取り組んでいます。

しかし、河川改修や雨水貯留施設の整備などのハード整備は、莫大な事業費や長い年月がかかるという課題があります。

そのため、費用対効果が高い「水田貯留事業」を、令和4年度から積極的に実施しております。



地下貯留施設(野田公園)

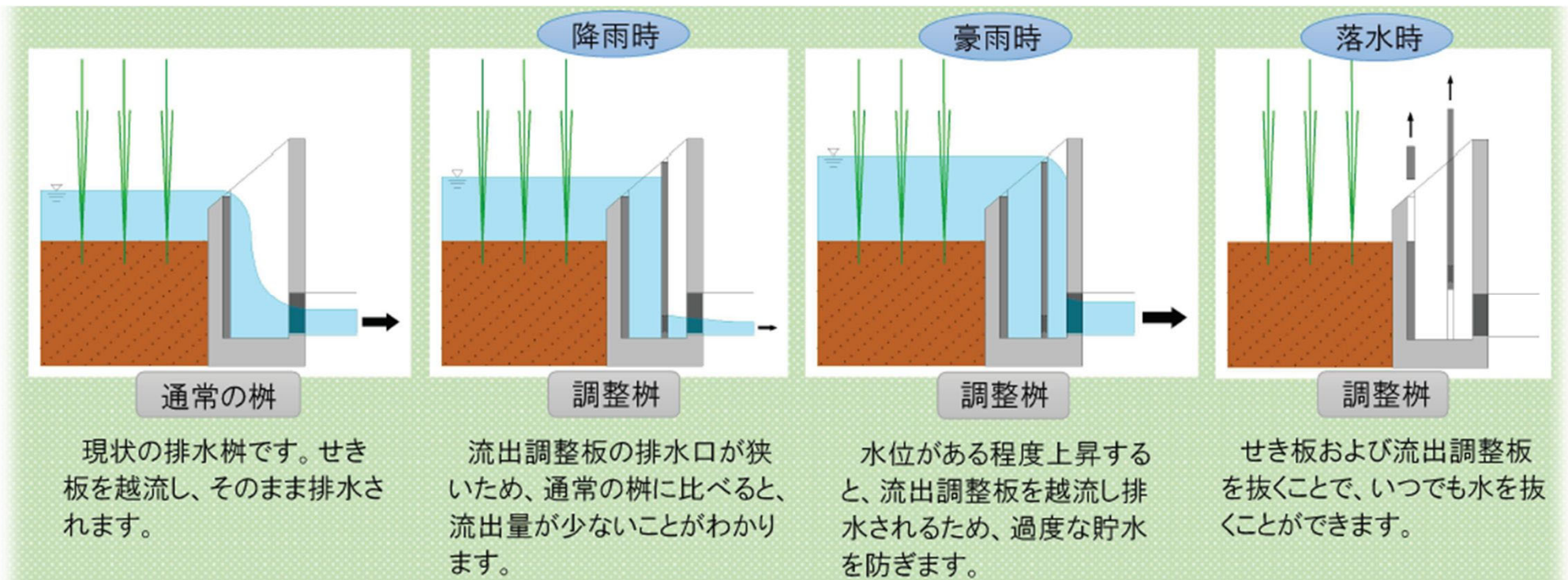


水田貯留実施柵(一里山町)

水田貯留とは

水田貯留の一番のメリットは、コストの低さで、1m³を貯留する費用は、約3千円であり、従来のハード整備と比較して大きく事業費を抑えることができます。

水田の排水柵に、流出量を抑制するための小さな穴の開いた「流出調整板」を取り付けることで、水田に降った雨水を時間をかけてゆっくりと排水し、排水路や河川への負担を抑えることができます。



刈谷市では、流出調整板の高さを田んぼのせき板より5cm高く設定しているため1000m²の田んぼで50m³もの雨水貯留をすることができます。

水田貯留事業の運用と実績

現在の運用は、刈谷市が実施場所を選定した後、地元の土地改良区に事業協力の働きかけを行い、承諾が得られた後、各水田の耕作者および土地所有者に事業への協力を依頼します。両者の同意が得られた後、刈谷市が排水柵の入替、流出調整板の設置を行っています。

過年度の施工実績は、以下の表の通りで、全て東海豪雨で甚大な被害が発生した逢妻川流域で実施しました。

実施年度	R4	R5	R6	R7	合計
実施面積(m ²)	8,141	4,885	8,993	13,800	35,819
水田貯留量(m ³)	396	238	438	672	1,744

令和7年度は、右図にある市道と東海道新幹線が交差するアンダーパスの冠水軽減を図るため、周辺の水田で実施しました。



泉田町新幹線下アンダーパス

水田貯留事業の課題

- ・ 地権者と話すまでの労力

→田んぼの地権者については、法務局を通して確認することができるが、連絡手段がなく、一軒一軒自宅に伺って、お話をしている。留守で空振りも多い。

- ・ 耕作者の同意が得られない

→排水柵が新品になることが耕作者の方にとっては、魅力の一つとなっているが、流出調整板の維持管理の点などから、同意が得られないこともある。

- ・ 水田貯留を実施した柵の管理

→水田貯留事業にて入れ替えた柵は、工事完了後、地権者に移管される。実際に調整板を運用しているかのチェックができていない。

- ・ 水田貯留によって弱くなった畔の対応

→排水管が既設流用できない場合は、柵と同時に排水管ごと入れ替えるが、畔を掘り起こすことになり、脆くしてしてしまう。

刈谷市の水田貯留事業は、始まったばかりであり、地元改良区、耕作者の意見を聴きながら、よりよいものに改良して参ります。

最後に・・・

周囲の耕作者や田んぼをお持ちの方に共有していただいて、刈谷市から協力の依頼があれば、同意いただけると幸いです。

